



公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
NPO 法人ダンスアーカイヴ構想

世界が注目する舞踏 (BUTOH) の過去・現在・未来を一望

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

2021年4～8月に「TOKYO REAL UNDERGROUND」開催！ オンライン公演・展示プログラムを展開

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催するTokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13のひとつとして、NPO 法人ダンスアーカイヴ構想が企画運営する「TOKYO REAL UNDERGROUND」を2021年4月から8月にかけて開催します。本リリースでは、オンライン公演・展示プログラムのラインナップ第一弾を発表します。



本企画は、1960年代の日本に生まれ、世界に広まった「舞踏」をテーマにする公演と展示によるダンスフェスティバルです。幕開けのプログラムとして、写真家ウィリアム・クラインの写真展「GINZA 1961 街が主役の写真展」を銀座の地下通路で開催します。また、ニューヨークを拠点に活動するダンスレジェンド尾竹永子のソロ作品を都内複数ヶ所で撮影。加えて、特筆すべきプログラムとして、パフォーマー川口隆夫のディレクションのもと、上野の旧博物館動物園駅という1930年代に作られた地下空間等に、ジャンルを横断して活動する気鋭のアーティストを招いて作品を制作。川口自身の新作『ミノタウロディスク』を含む約10作品をオンラインで発表します。1964年の東京オリンピックを前に急速に変貌する都市の中で生まれた身体表現「舞踏」の魅力を、2021年の東京から世界に発信していきます。新型コロナウイルス感染症の状況に対応して、公演は無観客で撮影を行い、無料でオンライン配信します。また、展示は、オンラインや屋外で行うことにより、密を避けた鑑賞を可能にします。舞台芸術鑑賞における新しい作り方と、新しい楽しみ方を創意工夫しながら提案し、コロナ時代のダンスフェスティバルを実施します。

1 | 企画趣旨

本企画は、「アンダーグラウンド」という言葉を、実際の地下空間と、かつて「アングラ」と呼ばれた芸術運動のもつ「自由な精神」の二重の意味に解釈して行うプロジェクトです。とりわけ、日本発の芸術文化「舞踏／BUTOH」から影響を受けた様々な作品を、地下空間で無観客上演し、オンラインプログラムとして配信します。観客は作品の鑑賞を通じて、2021年の東京の知られざる空間を見出し、新たな感動に出会うこととなります。本企画の焦点は、1960年代の日本に始まり、世界に広まった身体表現「舞踏／BUTOH」を現在の視点から見直すことにあります。白塗りやゆっくりとした動きといった固定のイメージを超えて、新旧世代の多彩なアーティ

ストによる自由な発想で舞踏の本質に迫ることを試みる実験的作品を展開し、その魅力を伝えます。これまでは一般には馴染みの薄かった舞踏に新たな光をあて、より広範な層に訴えかけることを目指します。配信コンテンツの制作に際しては、映像作家とのコラボレーションによる創作、映像ならではの機動性を生かした複数の空間での収録、作品の配信とアーティストトークの組み合わせ配信など、魅力あるコンテンツ作りを行い、コロナ時代のダンスフェスティバルの新しい形を提示します。舞踏が持つ多様性と意外性を感じることができる多種多彩なラインナップにご注目ください。

2 | 開催概要

会期 2021年4月1日(木)～8月15日(日)

会場 オンラインおよび都内複数カ所

料金 無料(オンラインプログラムは登録制)

オンラインプログラム登録方法

2021年4月1日(木)より受付開始予定。詳細は後日公式WEBサイトにて発表。

参加アーティスト

伊藤キム、尾竹永子、川口隆夫、ウィリアム・クライン、小林勇輝、
酒井直之、佐藤ペチカ、田辺知美、HAUS、吉本大輔ほか(50音順)

キュレトリアル・チーム

アーティストティック・ディレクター：川口隆夫(パフォーマー)

キュレーター： 飯名尚人(映像作家・演出家・Dance and Media Japan代表)
松岡大(舞踏家・LAND FES代表)

プロデューサー： 溝端俊夫(NPO法人ダンスアーカイヴ構想 理事長)

スタッフ

[事務局長] 呉宮百合香 [制作補佐] 本田舞 [広報] 西山裕子(ダンス プレストウキョウ)
[テクニカル] 呂師(砂組)、森規幸(balance,inc.DESIGN)、河内崇、國府田典明、吉田尚弘
[撮影配信] NPO法人LAND FES [編集] 原田環、中山真理(カワイイファクトリー)
[グラフィックデザイン] 北風総貴(ヤング荘) [WEBデザイン] 松岡未来(ヤング荘)
[翻訳] 本田舞、チャン・イン、李裁仁 [記録写真] 中川達彦、和田翼

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
企画運営：NPO法人ダンスアーカイヴ構想



協賛：BNPパリバ・グループ

協力：大野一雄舞踏研究所、NPO法人舞踏創造資源、慶應義塾大学アート・センター、FILMS PARIS NEW YORK、
Dance and Media Japan、NPO法人LAND FES、株式会社鈴木事務所、株式会社HAUS、
株式会社佐々木設計事務所、有限会社かんだ、京成電鉄株式会社、首都高速道路株式会社、
アーツアンドスナック運動 実行委員会、きもの池之端藤井、公益財団法人セゾン文化財団、
Taiwan Contemporary Culture Lab、ソニーマーケティング株式会社、一般財団法人セガサミー文化芸術財団
広報協力：ダンス プレストウキョウ

公式WEBサイト：<http://www.tokyorealunderground.net/>

Facebook：@DanceArchiveNetwork / Twitter：@dance_archive / Instagram：@dancearchivenetwork

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、プログラム内容に変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

3 | 展示プログラム

銀座の街を大胆に使って、舞踏の黎明期を写した写真家ウィリアム・クラインの作品展示を行います。オンラインでは、舞踏の過去・現在・未来を一望する展示を開催。街の風景と共に作品を味わえるリアルな展示と、じっくりと鑑賞できるヴァーチャルな展示、それぞれの特性を活かして展開します。

※本展示は新型コロナウイルス感染対策を徹底して展示します。ご来場のお客様におかれましても感染症対策へのご理解・ご協力を賜りたく、公式WEBサイトに記載の内容をご一読のうえ遵守くださいますよう、お願い申し上げます。

ウィリアム・クライン写真展「GINZA 1961 街が主役の写真展」

[日程] 2021年4月1日(木)～6月13日(日)

[会場] 銀座地下歩道(銀座駅・東銀座駅間地下通路)

1961年に初来日した写真家ウィリアム・クラインは、約2ヶ月間東京の街を駆け回って撮影し、64年に写真集『東京』を発表しました。その中から銀座を写した10点をセレクトし、壁いっぱい引き伸ばして展示します。オリンピックを控えて混乱と熱気に包まれていた都市を、世界的写真家の眼はどう捉えたのか。日常の風景の中に、突如として60年前の景色が現れる、都市型の写真展です。



ウィリアム・クライン「Crab Dancer」©William Klein, Tokyo 1961

街歩き型AR「ダンス・ハプニング・トゥデイ」

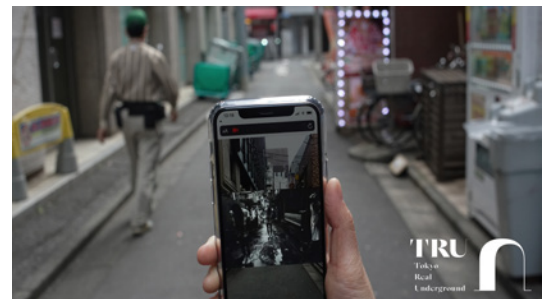
[日程] 2021年4月1日(木)～8月15日(日)

[会場] 銀座・新橋路上およびオンライン(閲覧方法は後日公式WEBサイトにて発表)

1961年の雨上がりの銀座・新橋街頭で、のちに舞踏の創始者とされる土方巽、大野一雄、大野慶人を撮影したウィリアム・クラインの足跡を辿ります。地図に示された場所へ赴き、スマートフォンをかざすと、そこで撮影された一連の写真を見ることができます。街そのものを展示空間にみたと、1961年と2021年の風景を重ね合わせながら350点超の写真のスライドショーで鑑賞する、新感覚の街歩き型AR作品。

※現地に行かない場合でも、オンラインにてご覧いただけます。

AR制作: HAUS



撮影: naoto ina.jp

オンライン年表「舞踏出来事ロジー」

[日程] 2021年4月1日(木)～8月15日(日)

[会場] オンライン(公式WEBサイト上に公開)

舞踏は前衛芸術の先頭を直走っていただけでなく、芸能界をはじめとする商業的な世界とも密接に結びつきながら発展してきました。キャバレーやCMで踊り、万博映画に出演し、音楽番組のバックダンサーを務め、近年は人気TVドラマにも登場するなど、多方面で活躍してきた舞踏家たち。様々なメディアやジャンルと結びつき、社会に影響を及ぼしていった舞踏の歴史を、イラストとともに振り返ります。

年表作成協力・寄稿: 乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

イラスト: 石原葉(画家)



舞踏出来事ロジーイラスト: Yo Ishihara

4 | オンライン公演プログラム

世界を飛び回り、ダンス・演劇・映像とマルチジャンルで活躍する人気アーティストたちの新作と話題作を無観客上演・撮影し、オンラインで配信します。

[日程] 2021年4月24日(土)～8月15日(日) ※6月末まで、毎週末に新規プログラム公開予定。

[会場] オンライン

尾竹永子『A Body in Places』+『福島に行く』

2014年より写真家・歴史家のウィリアム・ジョンストンとともに福島の被災地を5回訪れ、撮影を重ねてきたニューヨーク在住の尾竹永子。その膨大な写真をアメリカ各地で展示、また映像に編集して映写、それとともにソロ公演も続けてきました。震災から10年の節目に、生まれ育った東京の街なかと地下空間に福島のイメージを投映し、自らの身体を重ねていきます。その姿を撮影した『A Body in Places』を、プロジェクトの6年を追った『福島に行く』とペアで配信します。



尾竹永子『A Body in Hong Kong!』 Photo by CPAK

川口隆夫『大野一雄について』

2013年の初演以来世界38都市で上演を重ね、2016年にはベッシー賞にもノミネートされた川口隆夫『大野一雄について』を、8年ぶりに東京で再演。伝説的舞踏家・大野一雄について、一方ではその動きを記録映像から「完全コピー」することで忠実に再現し、他方ではその世界観の大胆な再解釈を試みる話題作を、映像ならではの演出でお届けします。



川口隆夫『大野一雄について』 Photo by Takuya

川口隆夫ディレクション企画「舞踏 ある視点」

パフォーマー川口隆夫のディレクションのもと、「舞踏」を批評的視点で考察していくパフォーマンスシリーズ「舞踏 ある視点」を開催。ジャンルを横断して活動する気鋭のアーティストを招き、川口本人の新作『ミノタウロディスコ』を含む約10作品をオンライン配信します。プログラムの詳細は、次回プレスリリースにて発表します。



旧京成博物館動物園駅 撮影：Tatsuhiko Nakagawa

【参加アーティスト】

伊藤キム、川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、佐藤ペチカ、田辺知美、吉本大輔ほか(50音順)

5 | 参加アーティストプロフィール

ウィリアム・クライン | William Klein

ニューヨークに生まれ育ち、パリでフェルナン・レジェに絵画を学ぶ。1952年より、写真技術を用いた実験的表現を模索。56年に故郷ニューヨークを写した初の写真集を刊行した後、世界の大都市をテーマにした写真集を次々に出版する。従来のタブーを破った広角の構図、粗いテクスチャ、強烈なコントラスト、型破りなフレーミング等は、続く世代に多大なる影響を与えている。

HAUS (竹田大純、林洋介、稲福孝信) | HAUS (Hirozumi Takeda, Yosuke Hayashi, Takanobu Inafuku)

システム開発からデザインまで幅広く手がけるチーム。近年の主な活動に、デザインあ展《デッサンあ》のエンジニアリング、チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』特設ウェブサイトのデザイン・開発、サウンドパフォーマンス用ライブコーディング言語「P-Code」の設計・実装等。

川口隆夫 | Takao Kawaguchi

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始する。2013年に初演した『大野一雄について』は世界各地で高い評価を受け、ベッシー賞ファイナリストにもノミネートされた。東京国際レズビアン&ゲイ映画祭のディレクター (1996~99)、イギリス実験映画監督デレク・ジャーマンの著書『クロマ』の翻訳 (2003)、短編映画『KINGYO』(エドモンド楊監督、2009ヴェネチア映画祭正式招待作品)への出演等、その活動は多岐に渡る。

尾竹永子 | Eiko Otake

1970年代の日本で土方巽と大野一雄、ドイツでマニア・シュミエル、オランダでルカス・ホーフリンクに学ぶ。1976年にニューヨークへ拠点を移し、「エイコ・アンド・コマ」として独自の身体表現を追求。さらに2014年から始めたソロの活動『A Body in Places』で新たな注目を集めている。ホイットニー美術館、MoMA、ウォーカー・アート・センター等で継続的に作品を発表。アジア人として初めてADFアワード(2004)、ダンス・マガジン・アワード(2006)を受賞、他多数。

舞踏 / BUTOHとは

戦後日本で生まれた前衛的身体表現。1920年代のドイツ・モダンダンスにその源流を持ちながら、西洋の舞踊概念を打ち破る独自の境地を切り開きました。土方巽『禁色』(1959)が最初の作品とされます。70年代後半より「BUTOH」の名で世界中に広まり、現在では世界各地で舞踏フェスティバルが催されているほか、学校教育の授業や教科書でも取り上げられています。

NPO 法人ダンスアーカイヴ構想とは

NPO 法人ダンスアーカイヴ構想は、大野一雄・大野慶人アーカイヴの芸術資産とノウハウを核に、横断的なダンスアーカイヴの意義の周知と国際ネットワークの構築を推進する団体です。舞踊文化の継承と振興に寄与することを目指し、資料の収集保存に加え、それらを活用した作品制作も企画します。また3D技術による新たなアーカイヴ手法の開発に取り組んでいます。

公式WEBサイト：<http://www.dance-archive.net/>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、展開しています。

公式WEBサイト：<https://tff-koubo.jp/>

お問い合わせ先 | NPO 法人ダンスアーカイヴ構想 (担当：西山、呉宮)

メール：press@tokyorealunderground.net

TEL：03-3582-9273 / FAX：03-3582-9275

